



鶺鴒の木地区一斉清掃  
(クリーンアップデー)  
日時 6月19日(木)  
※詳細は各町会の掲示板で  
ご確認ください。

編集委員 渡辺靖彦

私達は毎日の生活をして行くには「ごみ」を出さないと生きていけません。資源、生産する元になる物質を使います。その時、必ずいらぬものは「ごみ」が必ず出ます。特別がき、指定とされ、分別がき、指し定められ、袋に入れて出す必要があります。資源は、資源として回収され、再利用されます。資源は、資源として回収され、再利用されます。資源は、資源として回収され、再利用されます。

清潔な街づくり  
ごみ集積所はルールを守ってきれいに使おう

鶺鴒の木地域の町丁名別  
資源とごみの収集曜日一覧

集積所の所在地	資源物	可燃ごみ	不燃ごみ
鶺鴒の木 1丁目	木	火・金	第1・3土
鶺鴒の木 2丁目 3丁目	木	火・金	第2・4土
千鳥 1丁目[1~19番]	火	水・土	第2・4月
千鳥 1丁目[20~26番] 2丁目[1~26番 28~35番・37番]	木	火・金	第2・4土
南久が原 1丁目 2丁目	火	水・土	第2・4木

鶺鴒の木地域の分け方・出し方  
粗大ごみ、不燃ごみ、資源、ごみの分別の基本的な分け方です。鶺鴒の木地域の集積所で収集(回収)するものは、(1)新聞・チラシ(2)雑誌・雑がみ(3)紙パック(4)段ボール(5)飲食用びん(6)飲食用かん(7)食品トレイ(8)ペットボトル(9)可燃ごみ(週2回)(10)プラスチック・ビニール類(11)生ごみ(水きりをする)(12)貝殻(13)紙おむつ(汚物は取り除き袋の口は密閉する)(14)再生できない紙(15)少量の植木の枝・葉(50cm程度に切断し、ひもで束ねる)(16)ゴム製品(17)廃食用油(紙や布にしみ込ませるか凝固剤で固める)(18)皮製品(19)衣類(20)不燃ごみ(月2回)

粗大ごみ(家庭用)有料  
家庭から出る家具、寝具、電気製品などで一辺の長さがおおむね30cmを超えるもの。  
大田区粗大ごみ受付センター  
電話 54655300  
受付時間 8時~19時  
※各町会でもダンボール・新聞等を回収していますので、回収日は各町会にご確認ください。

資源モデル回収事業  
一部地域において、容器包装プラスチックを新たに回収しリサイクルする資源モデル回収事業を実施しています。  
毎週木曜日  
鶺鴒の木1丁目(2番1~17号・19号)終  
鶺鴒の木3丁目全域  
小型家電リサイクル事業  
鶺鴒の木特別出張所B1階のエレベーターの入口に小型家電回収ボックスを設置しています。  
対象となる小型家電は、以下の10品目です。  
①携帯電話②携帯音楽プレーヤー③携帯ゲーム機④デジタルカメラ⑤ポータブルビデオカメラ⑥ポータブルカーナビ⑦電子辞書⑧卓上計算機⑨ACアダプター⑩USBメモリ

ごみを減らす暮らしへ  
ごみをつくらないまち・おおを指してごみを減らして環境を大切にする社会を作るキーワード3R(サンアール)  
Reduce(リデュース)  
Reuse(リユース)  
Recycle(リサイクル)  
ごみ減らしの工夫をしましょう。  
ごみを減らすために、一人ひとりの減量と資源の循環が出来ます。

大田区立東調布第三小学校  
校長 菅谷 美津江  
本校の特色

鶺鴒の木地区の皆様には、日頃より多大なるご支援をいただき感謝しております。ありがとうございます。  
東調布第三小学校は、三月十四日、開校八十五周年の節目を迎えました。地域の学校として、これまで多くの方々に支えられ今日を迎えることができました。  
本校では、日常の清掃活動を異学年のグループで行うなど児童相互のよりよい人間関係を育む取組を実施しています。また、四年生以上の希望者で合唱団を構成し、学校・地域をはじめとして区内・区外にも発表の場を広げ活動しています。  
「第三いきいき活動」と称して、毎月、地域や保護者のボランティアの方々や児童にスポーツや料理など様々な体験活動を実施していただいています。防災宿泊やお餅つきもあります。  
子どもは、集団の中で他者との関わりを通して「社会性」を学びます。地域の皆様のご支援ご協力をいただきながら、「自分を見つめ」「他者を見つめ」学校生活を送れるよう指導して参りたいと思います。

未来の子ども達を育てています  
地域の学校

大田区立千鳥小学校  
校長 本田 幸彦  
千鳥小の三つの特色

創立六十二年目を迎える千鳥小学校には代々次の三つの特色があります。  
◇子供が輝く  
「千鳥スタンダード」という学習や学校生活の決まりがあり、全教職員が共通理解をもって指導をしています。  
◇教職員が輝く  
児童の実態に応じて、少人数指導や個別指導、グループ別指導等を工夫し、指導の効果を高めています。さらに校内研究会を充実させ、授業改善を行って教師の指導力を高め、子供たちの学力向上を図っています。  
◇地域・保護者が輝く  
地域の方を講師に招いたり、学校支援地域本部「チーム千鳥地域協力隊」との連携を図ったりすることで、「地域と共に歩む学校づくり」を推進しています。  
今年度も千鳥小学校をどうぞよろしくお願いいたします。

大田区立大森第七中学校  
校長 三浦 哲夫  
新年度を迎えて

昨年度を振り返ってみますと七中と地域の皆様とは様々な場面で交流をさせていただきました。春の「ガーデンパーティー」から始まり、夏の「鶺鴒の木祭り」、秋の「鶺鴒の木地区連合運動会」と大きなイベントごとに七中生がボランティアとして関わらせていただきました。地域の一員として働き、生かされ、また、健全育成の面からも得るものも多かったと思います。  
今年度も、校訓である『自治・礼節・勤勉』を基本姿勢として文武両道を目指し、「主体的・意欲的な学習」「責任感ある創造的な生徒会」「皆で燃える学校行事」「思い出に残る部活動」の四つの重点事項を中心に生徒が楽しく、充実した学校生活を送れるように努力してまいります。  
今年度も大森第七中学校をよろしく願い申し上げます。

大田区立嶺町小学校  
校長 東山 良彦  
本校の特色「多摩川活動」

多摩川活動は、多摩川をふるさととする、土愛や自然愛護の態度を育む教育活動です。隣接する多摩川河川敷を遊びの場にしたり、マラソントライムなどの体力増進の場として活用します。また、干潮時には水位が下がるため、多摩川に入って活動できます。低学年では「川歩き体験」と石拾いをし、それを使った作品を作ります。中学年では「川の生き物調べ」、高学年では「川流れ体験」をし、環境学習に取り組みます。本校で十年以上続いている多摩川活動を基にして、昨年八月に大田区初の「うのき水辺の楽校」として開校が認められました。今後は鶺鴒の木地区の皆様のご協力をいただきながら、鶺鴒の木地区の子供たちが多摩川で生き生きと自然体験できるように、活動を推進していきます。